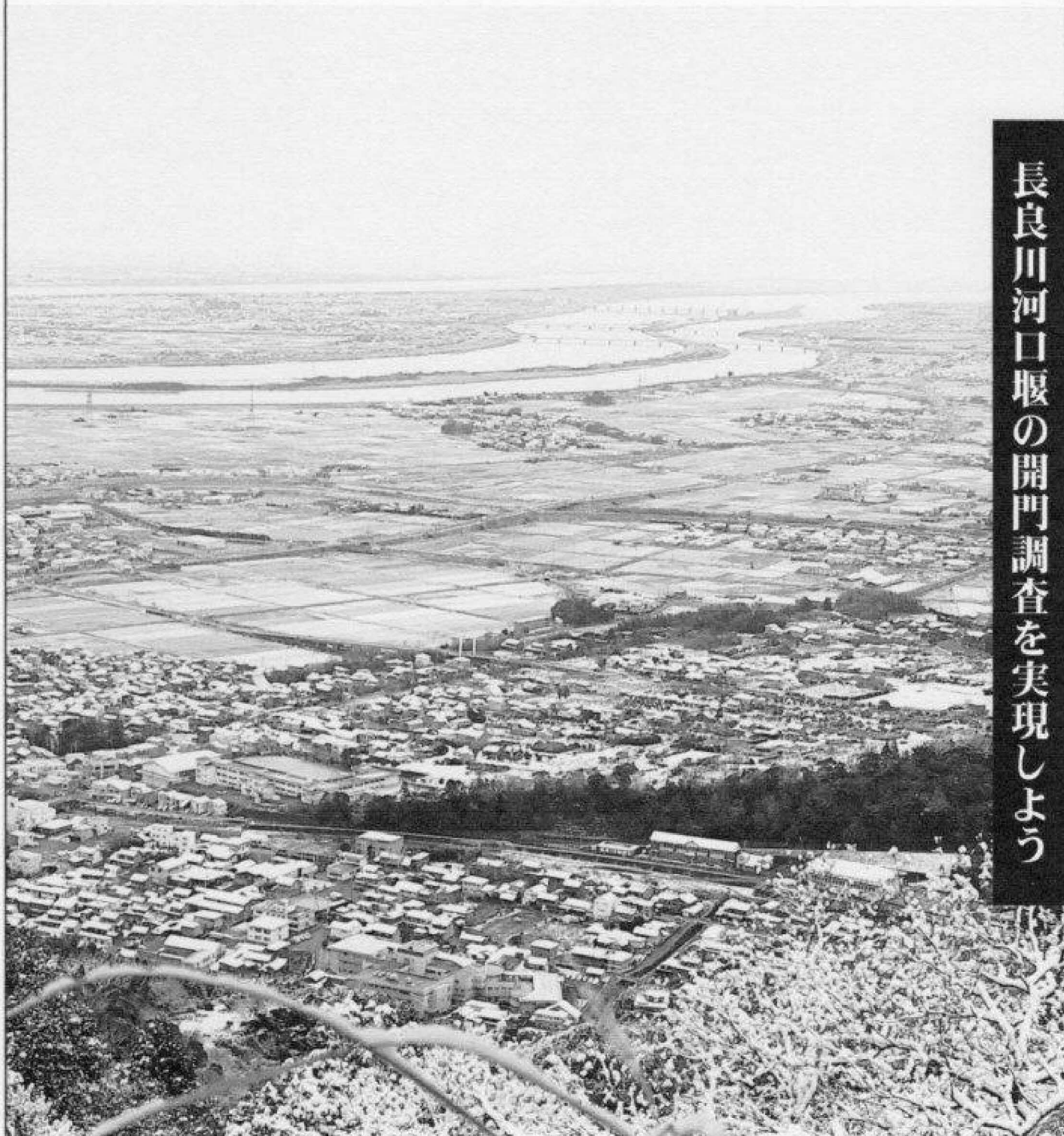
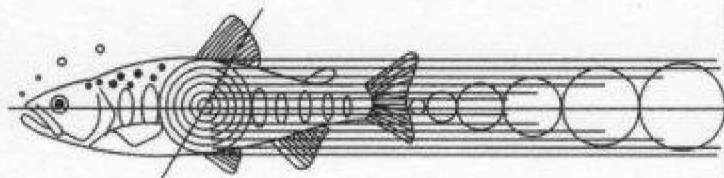


news

長良川市民学習会ニュース



長良川河口堰の開門調査を実現しよう

No.19

2014年12月15日

表紙 (粕谷志郎 雪の木曾三川)	P 1	2014年サツキマス観察会	P10
世界農業遺産のためにも河口堰開門調査を!	P 2	リレーで食べさせるアユの塩焼き	P11
長良川市民学習会の活動報告	P 2	霞ヶ浦導水路事業はいらない! 全国集会参加報告	P13
共同マニフェスト「開門調査」から4年	P 6	事務局より	P15
長良川のアユと生物多様性	P 7	校歌に歌われた長良川・今後の予定	P16

長良川を放射能で汚してはならない! 私たちは、原発の再稼働に反対します。

「清流長良川の鮎」

世界農業遺産のためにも河口堰開門調査を！

長良川市民学習会代表 粕谷志郎

世界農業遺産の候補地として、和歌山県、宮崎県とともに「清流長良川の鮎」の岐阜県が農林水産省により選ばれました。世界遺産に認定される事は喜ばしい事ではありますが、「あれ？」と首をかしげてしまうのは私だけでしょうか。長良川の鮎の漁獲量は長良川河口堰運用前後に激減し、その後も減り続けています。さらに最近、固定化しているのが天然鮎の小型化です。「爪楊枝のような鮎」と比喻する人もいます。河口堰の障壁のために遡上も降下も遅れることが原因ではないかと言われています。漁師さん達は、人工授精で得られた仔魚 1 億匹をトラックに乗せて、河口堰の下流までで運んで放流しています。こうした努力あつての現状でしょうが、かつての釣り人が川岸に沿って一列に並んで糸を垂らした頃とはかけ離れた現状です。

3 年前、愛知県の長良川河口堰検証専門委員会は、最低 5 年の開門調査を提言しました。これを受けて、岐阜県は塩害の危険性をアピールし、国もこれに答えようとしていません。農業用水の取水が行われない 10 月 11 日から 3 月 31 日の間に開門すれば塩害の心配は一切ありません。この時期に開放すれば、鮎の降下にも遡上にも劇的な改善となります。昔のような鮎と釣客が戻ってくるかを確かめる事が出来ます。合わせて、開門した場合、どこまでどの程度の濃さの塩水が上るのかを実測できます。塩水遡上が取水口まで迫る事がなければ取水期の開門も可能になります。危険があれば取水に支障のない堰操作はいくらでもできます。淡水と塩水を混ぜない運用という唯一の「解答」しか持たない貧困さこそが、長良川の生態系に破滅的な影響を与えているのです。

開門調査をする事によって、本当に胸を張って世界遺産と誇れる長良川に生まれ変わらせようではありませんか。

長良川市民学習会の活動報告

長良川市民学習会事務局長 武藤仁

長良川・伊勢湾・COP12 アクション

今年は生物多様性戦略計画の中間点としてのCOP12の年でした。今後、愛知ターゲット達成に向けた取り組みがとても重要になってきます。

COP10 開催時、私たち中部の市民グループは、「生命流域の再生」をアピールしながら会議成功に寄与しました。COP10 後、私たちは「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」をスローガンに愛知ターゲットの達成・「河口堰開門」を訴えながら、「韓国 4 大河川事業」とたたかう韓国のNGOとも交流活動を続けてきました。本年 9 月 29 日から 10 月 18 日まで、韓国・平昌で開催された CBD（生物多様性）・COP12 には、COP10 からの引き継ぎとして中部地域から積極的な取り組みが行われました。当会は「長

良川・伊勢湾・COP12 アクション」を提起し中心的な役割を担いました。

2014/9/7 岐阜新聞

9月5日から8日韓国4大河川事業とたたかう仲間を招へいし木曾三川エクスカージョン、市民シンポジウム(9/7名古屋市)、市民学習会(9/6岐阜市)を開催しました。9月6日に開催したエクスカージョンは「徳山ダム導水路事業の検証」をタイトルに徳山ダムから導水路計画ルートを辿るものでマスコミ関係者も参加し報道もされました。また、同夜開催された市民学習会「韓国4大河川事業と徳山ダム導水路」では、日韓両国の無駄な河川事業の共通性を市民とともに討論しました。今後市民世論を喚起するとともに導水路裁判控訴の運動と連帯し導水路事業中止に向けた取り組みを進めます。

9月21日～23日には、ラムサールネット日本が呼びかけた「4大河川日韓共同調査」に当会から武藤が参加し、24日ソウル市内において共同調査団は記者会見で「私たちは命が生き呼吸する健康な4大河川を見ることを望んでいる。」とする声明を発表しました。

CBD・COP12本番では、伊勢三河湾流域の市民運動の仲間とCEPAフェア会場でのポスター展示を行い、15日にはシンポジウムを開催しました。三重大学の高山さんの開催趣旨説明に続き、亀井さん(藤前干潟)、武藤(長良川)、市野さん(豊川)、キム・キョン Cholさん(韓国4大河川事業)の報告があり、その後討論。ネパール、韓国、日本から積極的な発言があり、欧米の方も熱心に討論に耳を傾け充実したものとなりました。

長良川河口堰の開門調査と「愛知ターゲット」

2010年10月、名古屋市で開催された生物多様性条約締約国会議COP10において、「愛知ターゲット」が「生物多様性戦略計画 2011-2020」とともに採択されました。同年、国連総会ではこの間を「国連生物多様性の10年」として、世界全体でこの目標を達成するための期間と決めました。

大村・河村両氏の共同マニフェストの環境10大政策はその成果を受けたものでした。とりわけ「長良川河口堰の開門調査」の公約はマスコミから注目され市民からは大きな期待が寄せられました。この公約にもとづき2011年6月愛知県において長良川河口堰の検証作業が行われることになりました。検証



の現在に至る経過は、愛知県長良川河口堰最適運用検討委員を務める富樫先生のP6『大村・河村共同マニフェスト「長良川河口堰の」開門調査から4年』をご覧ください。

今、私たちは長良川河口堰「開門調査実現」を求める声を大村知事、河村市長に届けるためにパタゴニア日本支社と協働してキャンペーンを始めました。みなさん！

<http://goo.gl/4gAvRB> にアクセスしぜひ賛同表明をしてください（当会のホームページ <http://dousui.org/> からアクセスできます）。このニュースに同封しましたハガキでも結構です。



このキャンペーンは、すでにダム撤去の時代にあるアメリカを舞台にした映画『ダムネーション』上映運動と連携したものです。当面、中部地域では1月24日(土)～2月6日(金)名古屋の今池シネマテークで上映されます。明るく愉快地ダイナミックにダムを撤去していくアメリカらしい映画です。必見です。

生物多様性と岐阜・長良川

岐阜県は、2011年7月に、「清流の国ぎふづくり宣言」を発表し、県庁に「清流の国推進部」を設けました。「清流」という名を冠した企画が頻繁に発表されますが、岐阜県の政策全体が「清流の国ぎふづくり」に相応しいものとなっているのかどうかは疑問です。

10月21日、農水省は「清流長良川の鮎～里川における人と鮎のつながり」を世界農業遺産の候補の一つに選定しました。岐阜県ぐるみで目指していたことです。しかし、このことを伝える報道は何故か長良川河口堰に触れようとしません。川を断ち切る河口堰の存在という重大問題を避けて「清流長良川の鮎～里川における人と鮎のつながり」を語るのは騙りではないでしょうか。

世界農業遺産と生物多様性は深くかかわっています。認定基準にも「環境が維持・保全され、生物多様性に富んだ地域であるか」とあります。はたして長良川で生物多様性は保全されているのでしょうか。

岐阜県は生物多様性基本法に基づく「地域戦略」を2011年7月に策定しています。そこでは三つの視点を設定し、10年後の目指すべき姿と関連施策を明らかにしています。第一の視점에挙げられているのが「森・川・海のつながりを守る」ことです。そして10年後の姿には「川では、海からサツキマスやカジカなどが遡上している。」が目指されています。長良川河口堰を開門して川と海をつながなければ「生物多様性地域戦略」の目標達成はあり得ません。

今回の世界農業遺産登録申請はなぜか上・中流に限定しています。しかし上流でも大きな問題を抱えています。岐阜県が進める内ヶ谷ダム建設です。郡上八幡のすぐ下流で長良川本流に注ぐ亀尾島(きびしま)川。内ヶ谷ダムはその源流に計画されている補助ダムです。改変され水没されようとしている場所は、珠玉の美しさを保っています。必要のないダムで「寝た子」状態であった計画が、2010年の「再検証」で起こされ、2012年には事業「継続」となってしまいました。安倍政権誕生とともに、補助金がそ

れまでの数倍の大幅増額となり、本体工事へと突き進んでいます。現在、仮排水トンネル工事を進めダム本体の着工に向かっていきます。山と川をつなぐ接点の溪流が長良川源流部でまた消えようとしています。

山川海のつながりをめざし、世界農業遺産登録を望む岐阜県でこのようなことは、あってはならないことです。

一方、岐阜市は岐阜市版生物多様性戦略策定をめざし、「自然環境基礎調査」を経て「調査結果のデータ解析・レッドリストなどの策定」を進めています。現在策定中の岐阜市版レッドリストでは長良川のアユが準絶滅危惧種に検討され、市民の大きな話題になっています。なぜ準絶滅危惧種に？大量の卵をトラックで運搬し、河口堰に併設された施設で人工ふ化させて一定育ててから河口堰下流に放すという手間もお金もかけた人為があつて、やっと遡上「数」を維持している実態が懸念されているからです。詳細はレッドリスト作成に携われた向井先生のP7「長良川のアユと生物多様性」をご覧ください。

世界農業遺産登録の申請では「鮎を中心とした内水面漁業が盛んである」ことをアピールしていますが、「鵜飼」、「瀬張り網漁」等伝統的な漁法をどう持続していけるかは漁師の生計環境に大きく依存しています。漁で生きていけるだけの魚の生息環境の保全が必要です。

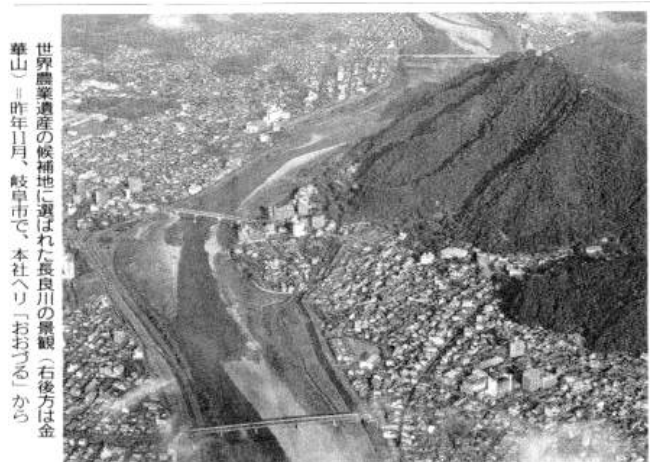
愛知ターゲットの目標18では、2020年までに地域社会の伝統的知識、工夫、慣行が、国内法と関連する国際的義務に従って尊重され、生物多様性条約とその作業計画及び横断的事項の実施において、地域社会の完全かつ効果的な参加のもとに、あらゆるレベルで、完全に認識され、主流化されることを謳っています。

迎える2015年は、河口堰運用20年となる年です。「河口堰開門」が聞こえなくなったり、タブーになるような状況を作ってはなりません。長良川市民学習会は「長良川における愛知ターゲット中間総括」活動を展開し、「河口堰の開門調査実現」「導水路事業の中止」の声を広げます。

年明け1月12日（成人の日）に市民シンポ「長良川のアユ」を開催し、生物多様性、漁業の保全の角度から市民論議を起こしたいと考えます。詳細は同封のチラシをご覧ください。

また、岐阜県に「開門調査支持」を求めるアクションを流域の市民団体と協力して行います。みんなの力で開門調査を実現し2015年を「開門元年」としましょう。

2014/1024 中日新聞



世界農業遺産の候補地に選ばれた長良川の景観（右後方は金華山）昨年11月、岐阜市で、本社へ「おおっる」から

国連食糧農業機関（FAO）が認定する世界農業遺産の候補地に岐阜県の長良川の上・中流域が選ばれたことを受け、古田肇知事は21日、記者団に対し「県のブランドの中心となる長良川とアユが選ばれ、うれしい限り。『清流の国』を世界へアピールする方法を考える」と、FAOの選考に期待を示した。＝関連⑥面
世界農業遺産は、伝統農法や関連する文化、生態系などの継承を目的に2002年に創設。来年5～6月に新たな地域が認定されるのを前に、7県から各1地域が国内候補地に名乗りを上げ、農林水産省は長良川上・中流域のほかに和歌山県のみなべ・田辺地域、宮崎県の高千穂郷・椎葉山地域をFAOに申請する候補に選定した。
2014.10/24 中日

大村・河村共同マニフェスト「長良川河口堰の」開門調査から4年

愛知県長良川河口堰最適運用検討委員 富樫 幸一

2011年2月の愛知県知事・名古屋市長の同時選挙では、大村・河村共同マニフェストの一つに「長良川河口堰の開門調査」が掲げられ、愛知県の「長良川河口堰検証プロジェクトチーム（PT）」が同年6月に発足し、公開で幅広い立場からの意見を聴取しながら2012年1月まで9回の会議と、3回の公開ヒアリング、11回の専門委員会（この報告案は11年11月）を開催して、PTは12年1月に「報告書」をまとめた。

他方、「国土交通省中部地方ダム等管理フォローアップ委員会」、「長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関するモニタリング部会」も、一部の専門家のメンバーが重なりながら行われており、11年11月の第

1回委員会には中部地整が上記の「専門員会報告書（案）」に対するコメントを出している。

愛知県のPTは、2012年6月から「長良川河口堰最適運用検討委員会」として引き継がれて、13年8月に「2012年度の検討のまとめ」が行われ、14年6月までに9回の会合が開かれてきた。併行して、愛知県庁の「長良川河口堰庁内検討チーム」も12年4月に設置されて、愛知県の側の率先的行動として、河口堰からの水源の転換、塩害防止、節水のよびかけ、などをめぐって13年3月に「平成24年度報告書」、14年3月に「25年度報告書」が出ている（愛知県のHPに掲載）。

本来は、愛知県と中部地方整備局の合同会議の開催が目指されており、その準備会（12年7月と10月）

が持たれたものの、その後、この手続きは中断したままである。また、岐阜県、三重県を交えた協議も必要になっていくだろう。現時点ではそのためにも、住民にも分かりやすい論点の再整理（中部地整への再質問を含む）を行おうとしている。

この11月に名古屋で開催された「ESDユネスコ世界会議」に向けたシンポジウム「サステナブルな海・川・人のつきあい方」の冒頭で、大村知事は「河口堰開門調査」に向けた意向を再確認するとともに、昨年、12月に中部地整に対して同意を与えた設楽ダムについても、こんご負担などをめぐってさらに課題が残されていると発言している。

2014/10/27 朝日新聞

愛知県の長良川河口堰開門調査は26日、名古屋市内であった講演会、2011年の知事選で公約した長良川河口堰（三重県桑名市）の開門調査について触れ、「難しいことは分かっているが、引き続き提案し、取り組むたい」と述べた。学識者による県の専門委員会は、環境回復のため、11年に15年以上の開門調査を提言したが、国土交通省などの反対で実現のめどは立っていない。

大村知事は当初、慎重だった設楽ダム（同県設楽町）建設には同意したものの、11年に河村たかし名古屋市長との共同公約に掲げた河口堰開門にはこだわった。

知事選の公約、大村氏強調

講演では「いったんできた河口堰を開放し、調査することは外国でもなかなか例がない」としながら、「継続努力が大切だ」とした。

また世界農業遺産の候補に「清流長良川の鮎」（岐阜県）が挙がっていることにも触れ、「豊かな環境があつてのことごとく、ぜひ申し上げたい」とし、開門調査に向け、岐阜県と連携したい考えを強調した。

講演会は愛知県の主催。知事在任中にダム計画を止めた嘉田由紀子・前滋賀県知事らを招き、河川や海との付き合い方を主題に聞き、約90人が傍聴した。

2014.10.27（伊藤智恵）

長良川のアユと生物多様性

岐阜大学准教授（魚類） 向井 貴彦

岐阜市自然環境基礎調査

岐阜市は市の中央部を北東から南西へと長良川が流れ、その周辺には伊自良川や荒田川、境川などの支流と水田地帯が広がります。北部は飛騨地方から連なる山地であり、南部は濃尾平野の始まりとなるため、多様な自然環境が混在し、多くの動植物が生息しています。その一方で、県内では最も人口の集中した県庁所在地であり（約 40 万人、県内 2 位の大垣市は約 15 万人）、市街地化も進んでいます。そこで、岐阜市では、2009 年度から 2013 年度までの 5 カ年をかけて「岐阜市自然環境基礎調査」をおこないました。地形・地質や自然景観について取りまとめるとともに、植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、貝類、十脚甲殻類の 9 部会（魚類と甲殻類は兼部）が調査をおこない、その結果、昆虫 3358 種、維管束植物 1538 種、哺乳類 35 種、鳥類 231 種、爬虫類 17 種、両生類 16 種、魚類 61 種、十脚甲殻類 8 種、貝類 102 種という、非常に多くの動植物種の記録が得られました。[詳細は「岐阜市の自然情報」として市のホームページで公開されています。

(<http://www.city.gifu.lg.jp/21150.htm>)

岐阜市版レッドリストの選定

この調査結果を元に、岐阜市版レッドリストの選定がおこなわれています。レッドリストとは「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」のことですが、すでに国際自然保護連合（IUCN）版や環境省版、岐阜県版などがあります。いろいろなレッドリストがあるのは、地理的スケールによって絶滅リスクの評価結果や、保全のあり方が違って来るからです。たとえば、トキやコウノトリは、世界的に見ればロシアや中国に生き残っていますが、それなら日本から絶滅しても問題ないのでしょうか？ 同様に、日本列島全体で見ればたくさんいる種でも、岐阜県では絶滅寸前かもしれません。

これまでの日本の自然破壊の歴史を振り返ってみれば、ある種の動植物の生息地を開発する時には「他の場所に多数生息するので、この場所を開発しても大きな影響はない」という理屈が使われることがあります。その結果、その生物の生息地は全国で開発されてしまい、ここが最後の生息地という状況になるまで追い詰められてしまいます。そうした事態を避けるためには、それぞれの地域ごとのレッドリストを作成し、各地域の自然を守るようにすることが重要です。県や市などの地域版レッドリストは、身近な自然を各地域で保全し、その結果として広い範囲での生物多様性の保全に貢献するものなのです。

(表-1)

和名	分布メッシュ数
オカワ	256
カヨシホリ	234
ミミダガカ	224
死コ	190
ア	169
ドゾヨ	143
ハマカ	137
カムツ	134
モゴ	130
コゴイ	123
アノハ	113
コイ	92
ゼゼラ	84
ナズ	80
ツタゴ	73
ウグイ	70
ヌムツ	68
アノハ	66
コウイコ	59
トヨシホリ	58
カハ	53
トカイガタジノトゾヨ	53
イトコ	50
カヒガイ	46
ホケトゾヨ	43
ドン	42
アユ	40
ニシノトゾヨ	38
ヌナヅ	37
ゴケカセ	32
ウナギ	29
シヨシホリ	28
アノトゾヨ	21
ニホウギ	18
カサ	15
デメコ	9
トカイシホリ	9
イモジノゴ	8
カノ小卵型	7
ハヨ	6
シロヒラ	6
シヤツメ北方種	5
シヤツメ南方種	4
ホウ	3
アマゴ(サツマス)	3
カハ死コ	3
ハマリ	2
ヌギ	1
ウツコ	1
マルセ	0
アノハ	0
カアノ	0

岐阜市では自然環境基礎調査によって動植物の生息状況がかなり把握されており、特に魚類は詳細な分布情報が得られたので、分布メッシュ数（表1）をもとに希少性を判断し、そこに生態の特殊性や、生息環境の安定性などを考慮してレッドリストのカテゴリー（表2）を判断しました。

岐阜市内における在来魚種の分布メッシュ数. 調査は岐阜市域を約 500m 四方のメッシュで分割し（1/2 地域メッシュ）、河川、水路、溜池などを含むメッシュで魚類の採集をおこなった。岐阜市全体でのメッシュ数は 907 であり、そのうちの 419 メッシュで魚類の分布情報が得られている。市街地や山地が市域の半分程度を占めることを考えると、魚類の生息する環境の大半を網羅できたと考えられる。

分布メッシュ数がゼロの 3 種は、基礎調査以外で情報が得られた、もしくは文献的に分布していたと考えられるが採集できなかった種。

○レッドリスト選定基準

（表－2）

カテゴリー	基本理念	定性的要件
絶滅	市内では、すでに絶滅したと考えられる種	過去に市内に生育・生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、市内ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	市内において、飼育・栽培下でのみ存続している種	過去に市内に生育・生息したことが確認されており、飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態では存続しているが、市内において本来の自然の生育・生息地ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧Ⅰ類	市内において、絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの	市内において次のいずれかに該当する種 ①既知の全ての個体群で、危機的水準にまで個体数が減少している。 ②既知のすべての生息地で、生育・生息要件が著しく悪化している。 ③既知の全ての個体群でその再生産能力を上回る捕獲・採取圧あるいは被食圧を受けている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種、または生態的に優越すると考えられる別種が侵入している。 ⑤生育・生息地面積や成熟個体数について、継続的な減少が予測されるあるいは、極度の減少が見られる。 ⑥それほど遠くない過去(約30年～50年)の生息記録以降確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
絶滅危惧Ⅱ類	市内において、絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの	市内において次のいずれかに該当する種 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生育・生息地で生育・生息要件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧あるいは被食圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種または生態的に優越すると考えられる別種が侵入している。
準絶滅危惧	市内において、存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの	市内において次のいずれかに該当する種 生息状況の推移からみて、種の存続への圧迫が強まっていると判断されているもの。具体的には分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 ②生育・生息条件が悪化している。 ③過度の捕獲・採取圧あるいは被食圧による圧迫を受けている。 ④交雑可能な別種、または生態的に優越すると考えられる別種が侵入している。
情報不足	市内において、評価するだけの情報が不足している種	ランクを判定するに足る情報はないが、次のいずれかに該当する種 ①どの生育・生息地においても生育・生息密度が低く希少である。 ②生育・生息地が局限されている。 ③生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等)。 ④生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。

岐阜市におけるレッドリストの選定基準. IUCN や国, 県の基準に準拠しており, 岐阜市内における絶滅のリスクの高さや存続基盤の脆弱さをもとにして各動植物種のカテゴリー(ランク)を決定している.

アユもレッドリスト種

今回の検討によって, アユも岐阜市版レッドリストの選定種ということになりました. ランクは「準絶滅危惧」です. 「準絶滅危惧」というのは, 今現在は絶滅のおそれはないが, 存続基盤が脆弱で, 今後の生息状況の変化によっては絶滅危惧種に移行する, というものです. 岐阜市におけるアユの生息環境は, ほぼ長良川だけに限られているのですが, その漁獲量は 1990 年代半ばから激減しており, 岐阜市内の長良川で産卵したアユの子供は海まで辿りつく前にほとんどが死滅している可能性があります. そのため, 長良川漁協がアユの受精卵を付着させたシュロを, 河口堰の横の水路に運んで仔魚が海に流下できるようにしています. このように, 長良川のアユの現状は, 明らかに「存続基盤が脆弱」で, 準絶滅危惧の要件に当てはまります.

野生生物としてのアユ

全国的には, 長野県(野生絶滅), 奈良県(絶滅危惧 I 類), 名古屋市(2014 年度改訂で絶滅危惧 II 類), 北海道(準絶滅危惧), 福岡県(準絶滅危惧), 東京都(情報不足)でアユがレッドリストに掲載されています. 長野県と奈良県は, どちらもダムによって下流域からアユがほとんど遡上できないために, そのような評価になっているのですが, 岐阜県も飛騨地方と木曾川・飛騨川流域は, 海からのアユの遡上が全くできないため, 県の半分以上の地域でアユは「野生絶滅」というのが実態です. それらの地域では, 毎年アユを放流しなければ一匹のアユも生息していません(恵那の阿木川ダムに琵琶湖産アユが陸封されているのみ).

野生生物としてのアユが, このような危機的状況に陥っていることを, 一般の市民はどこまで意識しているのでしょうか? 単なる「食材」や「漁業資源」であれば, 養殖して放流したアユが泳いでいけば良いのかもしれませんが, 自然の生態系を構成する野生生物として考えた場合, すでに岐阜県の大半で野生のアユは減っているのです.

淡水魚の生息する陸水域は, 利水のために水が取られ, 生活排水や工場排水が流され, 河川改修やダム建設によってコンクリートで改変され, 世界的にも最も人為的变化にさらされている環境だと言われています. 日本国内でも, 淡水魚の多くはレッドリストに掲載され, 絶滅の可能性があると言われてます. アユも当然例外ではないのですが, これまでは, 放流したアユが泳いでいることで多くの人が満足してしまい, 野生のアユが繁殖できるような自然環境を保全することに真摯に向き合っていなかったのではないのでしょうか? 川の環境を構成するのはアユだけではありませんが, 現状を客観的に見て, これからの自然環境をどうしていきたいのかを, 皆で考える必要があると思います.

2014年サツキマス観察会

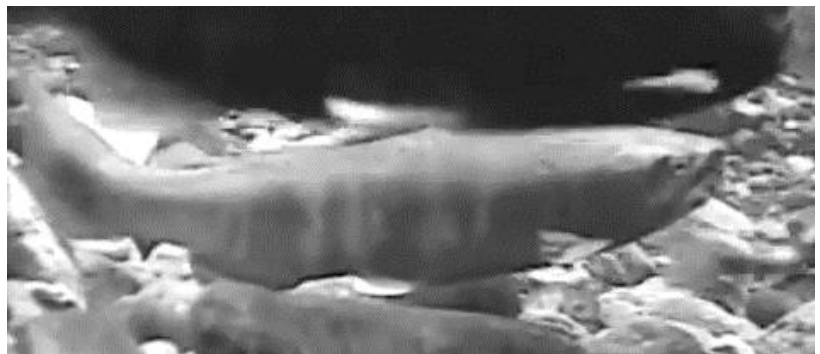
長良川水系・水を守る会 亀崎 敬介
<http://www.musublog.jp/blog/kawamutuuguioikawa/>

サツキマスの生活史

今年もサツキマスが郡上に帰ってきました。このサツキマスは2年前の冬に生まれました。簡単にサツキマスの一生を振り返ってみます。冬、郡上で生まれたサツキマスの赤ちゃんは産卵床のくぼみの中で過ごし、暖かくなると泳ぎ回るようになります。夏には郡上で「シマ」と呼ばれる15センチ前後のアマゴに成長し、その中から秋になると海に下る準備を始めるアマゴが現れます。シラメと呼ばれる銀色をしたアマゴで、体型はスマートで尾びれはV字に尖り、ウロコが剥がれやすくなっています。生後1年経った初冬の頃、シラメは伊勢湾へ下り豊富なエサを食べ大きくなります。5月頃、長良川に戻って来たサツキマスは夏の間、上流部で過ごし秋になると産卵に適した場所を探して、産卵し一生を終えます。

産卵観察会

長良川水系・水を守る会では1991年よりサツキマスの産卵を水中撮影してきました。産卵する場所は、上流に設置された砂防ダムが遡上限界となるため、その下流に限定されます。さらに石の大きさや流量にも産卵に適した場所は影響されるため、毎年同じ所でサツキマスの産卵を観察しています。観察会では、その日に産卵しそうなサツキマスを見分け、産卵床に水中ビデオカメラを据え付けます。



サツキマス（長良川水系・水を守る会ホームページから）

産卵場所には産卵床が多い時には10箇所ほどあります。どの産卵床も川底の石が裏返って白く同じように見えますが、産卵床を掘っている時は、一点集中ですり鉢状に掘り、産卵が終わって卵に土砂を被せるときは、中心点上流側を三日月状に掘り万遍なく掛かるように掘っています。カメラを設置する間サツキマスは産卵床から逃げるため、作業は短い方が良く、設置前の見極めは慎重に行なっています。カメラの設置が終わると、サツキマスの産卵行動を驚かさないう離れた場所でモニタごしに産卵の様子を観察します。ここから気長に産卵の瞬間を待ちます。雌が体を横向きに倒し尾びれで川底を叩いてすり鉢に掘っていく様子が良くわかります。ペアになった雄は産卵床の周りをうろつく他の雄を追い払うのに懸命です。小さなアマゴの雄も絶え間無くやってきます。その度にペアの雄はアマゴを追い回し、時には噛み付く事もあります。雌の方は掘り進むと時々体を穴に沈め尻びれを伸ばして深さを測ります。この動作が頻繁になってくると産卵が近づき、雄は体を震わせ雌に寄り添って産卵を促したりします。

産卵の瞬間は雌と雄がさっと横に並び、口を開け力を振り絞りそれぞれの体から卵と精子を出します。その瞬間、周りをうろついていたアマゴたちが産卵床に侵入し放精します。産卵を終えると雌はすぐにすり鉢状の穴の上流側を三日月状に掘り、土砂が万遍なく掛かるように掘っていきます。

上流の問題

以上が産卵の様子ですが、残念ながら今年は産卵の瞬間に立ち会えませんでした。人間の都合通りにはいかないのではありませんが、なかなか産卵しない原因のひとつに産卵場の環境の変化があげられます。以前は豊富にあった産卵に適した大きさの礫が下流に流されその層が薄くなり、産卵床を掘るとサツキマスの身体では動かさないような角張った大きな石が現れるようになりました。さかんに尻びれで深さを測る仕草でその石を気にしていることがわかります。上流からの土砂の供給があれば解決されるのですが、上流に砂防ダムがたくさん作られており、それぞれ大量の土砂が堆積しています。土砂が堆積した砂防ダムに新たな土砂が流れ込むと、勾配が緩く流れが遅くなっているため上流側に土砂の堆積が進み、下流への供給が少なくなります。このままでは砂防ダムの下流では岩盤がむき出しの川になり砂礫が減っていきサツキマスの産卵に影響がでてきます。

長良川水系・水を守る会 事務局 <http://nagarariver.blog10.fc2.com/>

長良川おんぱく リレーで食べさせる鮎の塩焼き

岐阜大学地域科学部教授 富樫幸一

「長良川おんぱく」も、今年（2014年）で第4回目です。最初の年（2011年）の100のプログラムから始まり、以降、120、130、そして今年は140とプログラム数を着実に伸ばしており、人気のメニューは予約開始直後から満員になるイベントです。観光やまちづくりだけではなく、**流域の連携を通じて清流・長良川を将来に伝えていこう**というのが、このイベントの大きな目標であり、「長良川清流白書づくり」もプログラムの一つとなっています。

毎回、メディアなどを通じてPRに努めていますが、今年は何か大きな目玉をとということで、「鮎の塩焼きを隣の人にリレーで食べさせる」人数で、ギネスの世界記録を目指しました。おんぱくの実行委員会の時、委員の一人の方が「長良川といえば鮎だから、食べてギネス記録を」と言い出したのがきっかけです。しかし、並んで食べるだけではフィリピンで8kmの大記録があったようです。これはいくらなんでも無理なので、「リレーで食べさせあった最多人数」ではグリコがポッキーで252人の記録を保持しており、8月にはあるアイドルグループが346人に伸ばしたところでした。

実際にコンクリートのU字溝を並べて炭で火を起こし，事前に実験しているところが右の写真です．隣の人に，鮎の背をミスなく齧ってもらうは意外に難しいことが分かるなど，検討を続けました．

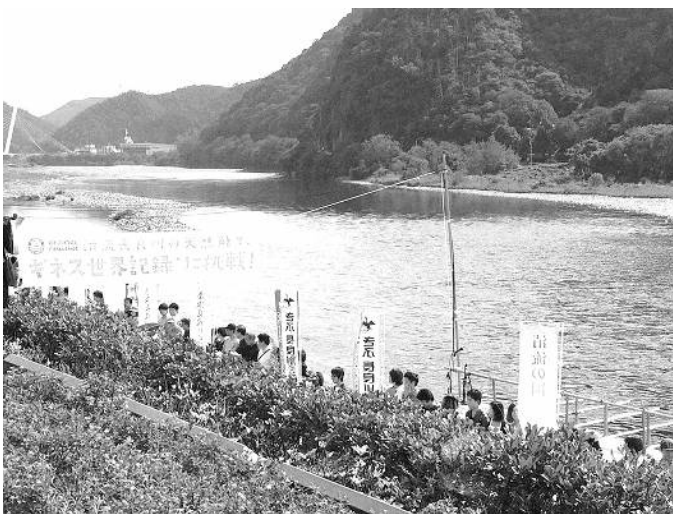
長良川おんぱくのウェブサイトなどで参加を募り目標近くの人数にいったん達しましたが，当日は1時間以上，鮎の皿を持って立ち続ける（座ったり，狭いラインからはみ出たらやり直し）のは体力もあるので，無理な人は遠慮していただくなど絞り込んで，再度，400人以上を集め直しました．



ギネス世界記録を達成！

10月11日の当日の早朝，70名を超えるボランティアスタッフが準備を始め，9時半には当日受付を含めて450名を超える人たちが，長良川にのぞむ鶴飼いミュージアムに集まりました．岐阜市長，岐阜県副知事の挨拶と激励を受け，自治体の部長さんなども最後尾に並びました．当日朝のNHKニュースでも流され，報道各社のカメラも数多く待機しています．参加者はボランティアに先導されて，長良川河畔のプロムナードに揃います．

日本支部の世界公式認定員・ウカソヴァさんの確認を合図に，次々と「鮎を一口」のリレーが繋がります．川の中の舟の上からもカウントの状況がボードで知らされます．冒頭の50人，100人くらいまでは慎重に食べたのか時間がかかった感もありましたが，200，300と延びていくと一気に，ついに459人の記録を達成しました．ちなみに高校生の参加者が一人，体調を崩してリタイアしたので，この数字です．監視員を務めたシルバー人材の皆さんとウカソヴァさんが厳密にチェックをしたあと，ギネス記録を達成したことが発表されました．



漁協，旅館組合の料理長・料理人のみなさん，おんぱく事務局，当日のスタッフ，そして長良川のためならと集まってくれた参加者全員の総力を結集した成果でした．

* 長良川おんぱく事務局
<http://nagaragawa.onpaku.asia/>

PS. 「リレーで食べさせあった人数」は，11月8日に長崎県の「壱岐牛」を食べるイベントで555人の記録更新ができています

「霞ヶ浦導水路事業はいらない！アユ・シジミ・サケ漁業を守ろう！」

水戸市での全国集会参加報告

長良川市民学習会 田中 万寿

岐阜で長良川河口堰が問題になりはじめた頃、利根川の河口堰が完成しシジミの大量死が報道されたことを覚えています。40年以上前のことです。導水路事業のこと、裁判のことをきちんと知りたいと思い、今回思い切って現地に行ってきました。東京の上野駅から荒川、江戸川、利根川を渡り常磐線の特急で約1時間で水戸に着きます。11月29日午後は茨城大学で開催の集会「導水路事業はいらない！アユ・シジミ・サケ漁業を守ろう！」に参加しました。集会は君島那珂川漁協組合長の「継承してきたこの豊かな川をなんとしても守り次世代へ引き継ぎたい」という挨拶ではじまり、次いで那珂川の漁業への影響、導水路事業は何故いらぬかの多くの報告がありました。会は100名を超える漁協関係者や市民、全国からの参加者で盛会でした。30日にはマイクロバスでの現地見学と水源連（水源開発問題全国連絡会）の総会に参加しました。

霞ヶ浦導水路事業計画とは

関東地方の大河利根川（322k）の河口には1971年に完成した利根川河口堰と隣接して霞ヶ浦と利根川を結ぶ常陸川水門（逆水門）があります。堰完成後、霞ヶ浦は淡水化したため汽水域を失い、多くの生物が姿を消し、地元の様々な努力にもかかわらず水質悪化をはじめとして環境問題が深刻化しました。

霞ヶ浦導水路事業は霞ヶ浦と利根川、霞ヶ浦と那珂川を2本の地下トンネルで結び水を相互に行き来させるというものです。主な目的には「霞ヶ浦等の水質浄化」「利根川と那珂川の渇水時の補給（流水の正常な機能の維持）」「東京などの新規都市用水の開発」が掲げられています。

利根導水路（約2.6km）は94年に完成しましたが、95年に霞ヶ浦の水を利根川に流す試験通水でシジミが大量死し、その後は漁協の反対で試験通水ができない状況がずっと続いています。

那珂導水路（約43km）は、那珂川から利根川へ毎秒15トン、反対に霞ヶ浦から那珂川へ毎秒11トン導送水する計画です。この導水路事業は1984年に工事開始。その後3回の計画変更があり完成は2015年度の予定。総工事費1900億円の約75%が既に使用されましたが工事の進捗率は33%程度。今後さらに増額される可能性があります。2009年の政権交代で一時凍結されましたが、見直しの結果国交省は今年8月に事業継続の方針を出しました。



那珂川アユ裁判

那珂川は栃木県的那須岳を源流として栃木、茨城を流れ水戸市北部から太平洋に注ぐ150キロの清流です。天然アユの漁獲量は1000トン以上。2位以下を大きく引き離して全国1です（長良川は全国9位）。またサケが多く遡上する川としても有名です。最下流部はヤマトシジミの三大産地の一つです。この那珂川の河口から18.5km上流に幅50mの導水路取水口を国が強行着工しようとするのに対して、2009年3月に栃木、茨城の那珂川流域の全漁協が原告となり「取水口建設差止め」を求めて水戸地裁へ提訴したのが「那珂川アユ裁判」です。この12月19日に結審し来年2015年春には判決の予定です。この裁判には全国から65人の弁護士が参加し弁護団を結成し、原告の漁協側は多くの専門家からなる「霞ヶ浦導水事業による那珂川の魚類・生態系影響評価委員会」を組織し科学的な検討を重ねたといいます。また河川、湖沼の漁業共同組合の組織の全国内水面漁連が全会一致で「漁協の同意を得ないままの一方的な取水口建設を中止するよう国に求める要望」を採択。流域自治体の多くの議会でも反対決議が採択され、2008年の仮処分申請時に行われた「取水口建設差止めを求める署名」は10万人を越えたそうです。それほど流域の人々にとって、那珂川は大切なかけがえのない川なのでしょう。

那珂川事業には多くの問題点が指摘されています。特に生態系が壊滅的な被害を受けるのではないかと大変心配されています。①大量取水により仔アユの大半が吸い込まれたり、下流への流下が妨げられるなど大打撃をうける。②下流部の汽水状態が変わりヤマトシジミの生息に影響を受ける。③劣悪な水質の霞ヶ浦からの導水により那珂川の水生生物は大きなダメージを受ける。④水の行き来により他の水系の生物が入り生態系を乱し、カワヒバリ貝など外来生物の侵入にもつながる。

逆水門の柔軟運用で水質改善、地域経済の活性化 - カムバックウナギプロジェクト

霞ヶ浦の水質汚濁を異なる水系の那珂川を犠牲にして浄化しようとするのではなく、常陸利根川の水門を開けて汽水域を生み出し、ウナギやシジミなどの漁業を復活させ、水質改善をして自然環境を再生しようという運動が行われています。大量の余剰水をかかえている工業用水を農業用水に転用しようというものです。水門近くにある農業用水の取水口を上流約20キロの工業用水口に移せば塩害の心配はなくなります。農業、漁業、企業、各省庁、行政、市民、研究者などが集って合意形成をしよう、そのために円卓会議を、という提案がNPO法人アサザ基金、霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議によってなされ、国会でも何度も取りあげられ、2002年には扇国交大臣が会議の開催を答弁したそうです。この具体的な建設的な提案をぜひ実現して欲しいものです。かつて霞ヶ浦は天然ウナギの宝庫だったとか。絶滅に瀕しているウナギが復活したらどんなに素晴らしいでしょう。今回の集会参加は長良川河口堰の開門と徳山ダム導水路問題にも多くのことを学ぶ経験となりました。

現地見学会でスナッフ写真



取水口建設予定地の前。2隻の船で川幅いっぱい張った網をたぐり寄せサケを捕る。水深は4～5m。今回は3キロ位のサケが3尾捕れ、私たちは「ちゃんちゃ焼き」という漁師料理をごちそうになった。組合は毎年秋の産卵時期に捕獲したサケ（許可捕獲は3万尾）から採卵し、孵化させ、5cmくらいに育て毎年100万尾を放流する事業を行っている。



天然の産卵場は25～30キロ辺りの湧き水のある砂場の浅瀬。10月中旬が最盛期とのこと。橋の上から産卵を終え横たわるサケがたくさん見られた。サケの捕獲数には天然産卵の寄与率が大きいとのこと。

署名にご協力を！

原告の漁協が判決を前に水戸地裁にたいして署名活動をはじめました。このニュースに同封しました署名を集めていただき（ご自身だけでも結構です）用紙を下記へ郵送してください。

319-0122 茨城県小美玉市江戸90-175 浜田篤信

水源連HP（<http://suigenren.jp/>）に総会の資料などが掲載されています。

事務局より

- *長良川のアユ釣り師で白滝治郎さんを知らない者はいないはず。1月12日のシンポ「長良川のアユ」でどのようなお話が聞けるか、事務局としてより1人の郡上アユ釣り師として今から楽しみです。
(堀敏弘)
- *今年もあっという間でしたね。思えば台風やゲリラ豪雨で長良川の増水がすごかったのを思い出します。あれだけきれいな川があんなに変った姿に驚きました。
韓国の方との交流で、改めて本当に守っていきたい川だと心を新たにしました。良いお年をお迎えください。
(中川敦詞)
- *長良川の水面から船着き場の石段をまっすぐ登り、杉の大木を抜けて楼門をくぐると拝殿と本殿があります（すべて重文）白山の前宮、洲原神社の御神体は白山ですが長良川をも祀ると私は思っています。それほどの景色です。
(粕谷豊樹)
- *腹立たしいことの多い年でしたが、そんな中でもめげないで自分を貫く、多くの人たちに出会った一年でもありました。小さな力でも、流れ続ける長良川のように継続して、来年も自分にできることを頑張ろうと思います。
(岡久米子)
- *2015年は河口堰閉鎖20年です。開門調査が実現し確かな再生の年になりますよう。来年もどうぞよろしく願いいたします。
(事務局一同)



校歌に歌われた長良川 ⑱

岐阜薬科大学学歌

作詞／北原白秋
作曲／山田耕筰

一、鳳川の水と清く 水と清く

響けよ新人 眉は昂(あが)れり

白亜の我が校 平野の学塔

純情朗らかに 我等挙(こぞ)れり

高鳴れこの胸 健児よ起(た)つべし

二、伊吹嶺(ね)の霧と深く 霧と深く

かをれよ薬学 道は通れり

真理の探究 栄(はえ)ある済生

正大為(な)すあり 我等勢(きお)へり

強かれこの土気 健児よ往(ゆ)くべし

三、夕映(ばえ)の高き城と 高き城と

輝け我が業(わざ) 雲は燃えたり

金華のかの空 希望の鳳凰

勇躍飛ぶべし 我等明日(あす)あり

誇れよこの夢 健児よ俟(ま)つべし

小生、二十一年間岐阜薬科大学に教員として勤務し、昨年三月末に定年退職しました。岐薬の入学式と卒業式では、必ず学歌の斉唱があり、小生は母校ではありませんが、式では、教員、学生が一体となって、三番まで大きな声で歌うので、ホールに響き渡る様は爽快でした。入学式では、その日の儀式の直前に音楽クラブ員の在学生数名が、新入生全員に学歌斉唱に向けて歌唱指導を行うならわしで、そのような形で新入生が入学式に臨むのは大学の入学式では珍しい光景と思います。山田耕筰作曲・北原白秋作詞の校歌はずいぶんあり、珍しいものではありませんが、昨年の三月の卒業式は、学生のみならず小生にとっても、いわば退職という卒業式であったので、ひときわ声高に歌った気がします。

校歌に思い出というほどのことありませんが、校歌を歌うたびに、その冒頭の「鳳川の水と清く水と清く」は後世に残すべき姿と胸に刻んでいました。

荒井謙次(あらい よしつぐ)

「鳳川」とは、長良川のこと 富樫幸一

岐阜薬科大学(前身の岐阜薬学専門学校は1932年、設立)の校歌では、三番で「金華のかの空 希望の鳳凰」、一番の冒頭では「鳳川の水と清く」と歌われ、同窓会誌も「鳳川ジャーナル」だそうです。今、岐阜のお座敷遊びで人気の「鳳川伎連」さんは、「鳳は金華山に由来します。その麓を悠々と流れる川、つまり鳳川とは長良川の雅名です」とその由来を紹介しています。

それ以上はまだ分かっていませんが、晩秋に渡りのタカが金華山の上空で、舞い集いながら上がって行く姿を勝手に想像しています。
鳳川伎連 <http://www.housen-giren.com>

今後の予定

- 12月24日(水) 長良川市民学習会忘年会 pm6:30～「和笑」(岐阜駅から徒歩7分)にて 誰でも参加できます。参加を希望される方は武藤までご連絡ください。参加費4000円程度。
- 1月12日(成人の日) 市民シンポ「長良川のアユ」pm1:30～4:00ハートフルスクエアG大研修室
- 1月27日(火) 導水路裁判第2回口頭弁論 pm3:30～名古屋高等裁判所
- 1月24日(土)～2月6日(金)映画『ダムネーション』上映 名古屋・今池シネマテーク

発行：長良川市民学習会

<http://dousui.org/>

代表:粕谷志郎

連絡先:武藤 仁/090-1284-1298

〒500-8211 岐阜市日野東 7-11-1

- 私たちの活動は皆様のカンパで成り立っています。賛同して下さる方は、ぜひカンパをお願いします。

ゆうちょ銀行口座：00840-3-158403

口座名称：長良川市民学習会